



# 泰山木

ホームページ

<http://www.city-takaoka.jp/bakurou/index.html>

## 本年度の教育指導の重点

校長 新井郁夫

入学式は、昨年と同じように満開の桜が新入生を迎えてくれました。卒業式で51名の児童を送り出し、校舎に響く子どもたちの声にも、心なしか元気はありませんでしたが、60名の児童が新しく仲間入りし、ようやく学校に活力が戻ってきました。同時に377名の子どもたち一人一人の健やかな成長を願って、平成20年度の教育活動が始まりました。

本校は、学校教育目標に掲げる「人間性豊かで、自らを高め、たくましく生きる子どもの育成」を目指し、今年度の重点目標を「たくましく生きる博労っ子の育成」としました。

本年度は特に次のことに力を入れて教育活動を進めてまいります。

音読など読む力を核にし、言語活動を推進し国語力の向上を図る。

自然体験活動を通して、自然愛護、生命尊重の精神を醸成する。

「元気キッズ2008」「すこやかキッズ2008」を核にし、運動の習慣化や基本的な生活習慣の定着を図る。

教職員一同、「たくましく生きる博労っ子」の育成に向け、「最善の努力」をモットーに励みますので、昨年度に変わらぬご支援ご協力をお願いいたします。

## 平成19年度卒業生に贈った饞の言葉から

今日、この卒業の日にぜひ皆さんと一緒に、考えたいことがあります。それは、「ピンチはチャンス」ということです。

山本よしきさんが書かれた詩に「ピンチの裏側」というのがあります。

### ピンチの裏側

神様は決して  
ピンチだけをお与えにならない  
ピンチの裏側に必ず  
ピンチと同じ大きさのチャンスを  
用意してくださっている  
グチをこぼしたりヤケを起こすと  
チャンスを切り抜ける目がくもり  
エネルギーさえ失わせてしまう  
ピンチはチャンス  
どっしりかまえて  
ピンチの裏側に用意されている  
チャンスを見つけよう

これは、昨年夏の甲子園を制した佐賀北高校野球部の部室に九年前から、掲げられていて、部員たちは「ピンチはチャンス」と心のなかで

歌い続けてきたという。

佐賀北高校は2回戦で宇治山田商業と延長15回4対4の引き分け、再試合9対1で勝ち上がり、決勝で広島の高陵高校に、8回4点差をつけられ、絶体絶命のピンチを、チーム一丸となり、5対4とし、劇的な逆転で優勝しました。

「あきらめない、愚痴らない、くさらない」どんなにピンチになっても神様は同じだけのチャンスを用意され、それを失うか、生かせるかは、日ごろのたゆまない努力に尽きると私は思いました。

詩人の山本よしきさんは佐賀北ナインが自分の詩を愛読していることを知り、

人は一人では生きていけない  
支え 支えられて生きている

という新しい詩を贈ったと聞いています。

中学校生活では楽しいことがいっぱいあるにちがいません。同時に、つらいことにも出会うかも知れません。しかし、どんな時も、心の中で「ピンチはチャンス」と思い、たゆまぬ努力を続けてください。